



お江戸舟遊び瓦版 712号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

世界都市農業サミット in 練馬

日時：11月30日、12月1日

所：練馬文化センター、区民・産業プラザ

主催：世界都市農業サミット実行委員会、練馬区

挨拶：前川耀男（練馬区長、実行委員会会長）

練馬区は、大都市東京の都心近くに位置しながら、市民生活と融合した生きた農業が営まれている。都市農業は、都市生活に豊かさをもたらすもので練馬区の誇りです。

この農業と農地を守り、次世代に引き継ぐことが区の重要な責務です。サミットは都市農業の魅力と可能性を世界に発信し、参加都市が相互に学び、さらに発展させていくために開催します。

基調講演「都市農業の未来を語る～私たちの暮らしと社会をいかに豊かにできるか～」

後藤光蔵（武蔵大学名誉教授）

サミット開催の目的：日本初の大規模な都市農業に関する国際会議

日本の都市には多くの農地が残り、本格的農業が営まれ、農地と非農地が混在している。今まで、欧米の都市とは異なるという認識が強く、外国の都市農業への関心が薄かった。練馬区は都市農業を営む代表的な都市だが、農地・農業者の減少に歯止めはかからない。

日本では2015年都市農業基本法が制定され、都市農地・農業の重要性が明確化された。海外の都市では、食という観点から都市農地・農業への多様な取り組みが見られ、日本にも紹介されるようになってきた。各都市の取組から学び合うことは有意義と考え、今回のサミットに大いに期待したい。

サミット参加都市における都市農業の概要

ニューヨーク：社会の課題を都市農業で解決

ビル・ロサツソ（ニューヨーク市、グリーンサム部長）

グリーンサム事業で、550ヶ所の農園を運営している。1970年代に荒れ果ててしまった空を憩いの場に再生させようと、市民と市で展開し、若者の就労支援や新鮮野菜供給に取り組んでいる。

ロンドン：オリンピックを機に2012ヶ所の農園を開催 アンドレ・フルヨン（ブラント大）

地域活動によるコミュニティ農園と区画貸しの市民農園の2タイプがある。コミュニティ農園は2012年のオリンピックを機に開設し、1/3は学校内で、子どもたちが参加している。

ジャカルタ：急激な都市化に対抗し環境改善に取り組む ダルジャムニ（水産農業食糧安全保障局長）

都市化発展で自然破壊が進行し、気候変動や洪水の多発など、深刻な問題を抱え、解決のために、行政と市民の連携「ガンヒジョウ（緑の路地）」緑化事業を進展中。

ソウル：市民とともに日常生活に都市農業空間を広げる

ソン・インボン（都市農業課長）

屋上・裏庭を活用した園芸活動や郊外の市民農園活動が中心で、レジャーや教育が主な目的です。2011年からの振興施策によって市内の都市農業空間は6倍に拡大し、都市農業EXPOも開催している。ソウル市の東西に位置する江東区と江西区が中心です。



トロント：都市農業を通じて移民の社会的包摂を推進 ソニア・ディール（都市農業プログラム課長）

市民の半数が移民のトロント市。移民と地域をつなぐのがコミュニティ農園です。野菜は地域住民に供給され、環境保全を目的に官民連携の活動が盛んなことがトロントの特徴です。

練馬：白石好孝（350年続く農業者、元全国農協青年組織協議会委員長、風の学校長）

練馬区には、東京23区の農地の4%にあたる200haの農地があり、大根、キャベツ他100種類を栽培しており、果実も多様である。直売所は270ヶ所、マルシェも多い。自分で育てる楽しみの「農業体験農園」は、練馬区が発祥の地で、利用者は農業主の指導のもと、種まきから収穫まで一連の農作業を体験でき、農業にチャレンジする人も出てきている。練馬区が整備した区民農園も広がっており、自宅の近所で気軽に野菜や花の栽培を楽しめる。

「みんなde農コンテスト」

昨年のプレイベントで入賞した3団体が、1年間の取組みを続けてきた。その過程の報告プレゼンテーションが行われた。

ねりまみどりの教室：東京学芸大学・国際中等教育学校

生徒が中心になり、小学生を対象に都市農業を学ぶ教室を開校し、農業者に協力いただき、野菜の収穫や出荷体験を通して都市農業を学び、練馬まつりで都市農業の魅力を発信しました。

産地＝開進第二中学校：区立開進第二中学校

校内にある1000㎡を超える畑で、年間20種類以上の野菜を栽培しました。社会福祉法人が運営する「手づくり焼き菓子かすたねっと」と連携し、収穫した野菜の販売を行い、地域へ「まちなかの農」として発信してきました。

果樹とふれあい親と子の心を育む農業体験教室

「ぶどう畑のミツオさん」

：NPO法人みどり環境ネットワーク・みやべぶどう園

みやべドウ園で、冬期から収穫期までのぶどうの栽培過程を親子で楽しみながら体験しました。8月に「収穫祭」を開催し、ぶどうの摘み取りやぶどう染め体験などに、400名以上の方が参加してくれました。

結果：開進第二中学校が会長賞、他二校がJA特別賞でした。

感想：各チームのプレゼンテーションがあまりにも上手く、若い子供たちの行動力に大変感動させられた。それに対して、政府の「桜を見る会」の各省公務員の方々の首相の嘘をかばい・忖度し続ける行動には悲しくなるばかりと感じざるを得ない。

所感：東京で農地・農業者の一番多い練馬区で開催された「世界都市農業サミット」に参加した。

スウェーデンの高校生グレットさんが「人々が苦しみ、死んでいる。生態系全体が破壊され、絶滅の始まりに直面している。それなのに、あなた達はお金や永遠の経済成長という信じられないお伽話ばかり」と世界各国首脳に訴えた言葉を再考したい。地球資源と環境は有限であり、近く予想される関東大震災時には、電気や水が止まってしまう、生活が不可能になりかねない。東京の食糧自給率はたったの1%だ。

都市農業の必要性は、環境や防災のみならず、**食の安全保障**からもあまりにも大きいと考える。生物多様性保全を祈念したい。

（文責 中瀬）

